

住民ワークショップ結果・分析報告

1. 目的

住民目線での芦屋町の課題や現状、住民の思いを把握し、第6次総合振興計画策定のための基礎資料とすること。

2. 実施概要（全2回）

- | | |
|-----------|--|
| (1) 実施日程 | 【第1回】令和元年11月28日（木）
【第2回】令和元年12月19日（木） |
| (2) 実施場所 | 芦屋町役場 3階 31会議室 |
| (3) 参加人数 | 【第1回】22名 【第2回】26名 |
| (4) 参加者構成 | 各種団体から選出された方、公募委員、芦屋町役場職員 |
| (5) 実施手法 | 5名程度の班をつくり、グループワーク |

3. ワークショップのテーマ

【第1回】令和元年11月28日（木）

テーマ『「今までのまちづくり」を振り返ろう』

芦屋町の魅力と課題を踏まえ施策を評価し「芦屋町の通信簿」を作成

【第2回】令和元年12月19日（木）

テーマ『「未来のまちづくりの方針」を考えよう』

第1回目で作成した「芦屋町の通信簿」をもとに、今後取り組むアイデアを出し、そのアイデアのもとに芦屋町の将来像のキーワードを抽出

4. 実施報告

【第1回住民ワークショップ 評価点数】
 全班共通して平均点以下となった（改善していくところ）のは「5. 活力ある産業を育むまち」であった。
 全班共通して平均点以上となった（伸ばしていくところ）のは「1. 住民とともに進めるまちづくり」、「3. 子どもがのびのびと育つまち」、「7. 心豊かな人が育つまち」であった。

基本目標	第1回(芦屋町の通信簿)				良い点	気になる点
	1班	2班	3班	4班		
1. 住民とともに進めるまちづくり	3	3.5	4	4	○住民活動は活発に行われている ○人柄がよい ○子どものあいさつが多い ○住民参画などの会議が多い	×参加者、協力者の固定化 ×外から来た人に冷たい ×芦屋組と山鹿組に分かれている ×住民参画には高齢者が多い ×役場と住民の間に温度差がある
2. 安全で安心して暮らせるまち	2.5	4	3	4	○消防団の活動が活発 ○災害が少ない ○通学路などで何かがあった場合、対応が良い ○見守り隊の活動が活発	×防災意識や災害への危機感が低い ×警察官が常駐しておらず、犯罪への不安がある
3. 子どもがのびのびと育つまち	4	3.5	4	3	○小中学校の先生も頑張っており、支援教育にも力を入れている ○町おこし的なフェスタや花火大会がある ○子ども会の活動も活発で行事に子どもが参加する ○学校の設備が良い	×子どもの数が少なくなっている ×行事が多く、子どもにゆとりがない ×中央公園に遊具がなく、子どもの遊び場の確保が必要
4. いきいきと暮らせる笑顔のまち	3.5	2	4	3	○小さい町ではあるが病院がある ○あしたの会やお弁当の配達などの活動がある	×医療・福祉のさらなる充実をして欲しい ×高齢者が高齢者を支えている ×アッシーグラウンドの利用者が少ない ×障がい者対応は前例がないと動かない ×特別支援学校が町にない
5. 活力ある産業を育むまち	2	2	2.5	2.5	○観光、農業祭、砂像などの資源はある ○お店を出店する新規の方への支援	×一次産業を中心に担い手が不足している ×イカの不漁 ×ホテル・土地がない ×商店街の活力が低下 ×子どもと食事をする場所がない ×農業・漁業に対する支援の不足
6. 環境にやさしく、快適なまち	4	3	2	4	○町営住宅や公園、上下水道、道路等の整備がされている ○海がきれい ○クリーンキャンペーン等の環境美化活動が行われている	×交通の便が悪い ×道路交通の安全性が不安 ×飛行機がうるさい
7. 心豊かな人が育つまち	4	3.5	4	4.5	○文化・スポーツ活動が盛ん ○体育館が充実し、老朽化施設の整備も進んでいる ○芦屋釜がある ○浜運動会や釜の里のイベントがある ○同和教育が行われている	×文化施設はあるが利用されていない ×歴史の教育が偏りがち ×伝統文化の継承が課題
8. その他						

【第2回住民ワークショップ 重点プロジェクト】
 第1回で課題としてあげられた産業振興と交通利便性に対応した、芦屋町の魅力を活かした観光関係のプロジェクトや交通利便性関係のプロジェクトが多くあげられている。

第2回(重点プロジェクト)
◆近所さんプロジェクト ◆クリーンな町作りプロジェクト
◆元気な芦屋っ子政策プロジェクト ◆安全(下校時の見守り、青バト)
◆人に優しくプロジェクト
◆芦屋に足を運んでもらおうプロジェクト ◆海と夕日のプロジェクト ◆芦屋の心、再発見+そうだ、芦屋に行ってみようプロジェクト ◆産業、観光プロジェクト ◆観光 PON PON プロジェクト
◆交通の利便性改善大作戦 ◆交通アクセスプロジェクト ◆交通革命プロジェクト
◆芦屋町から金メダリスト
◆人口を増やすプロジェクト

【第1回目住民ワークショップにおける各基本目標の評価のまとめ】

- 1. 住民とともに進めるまちづくり**
住民の活動は活発に行われているが、参加者の固定化や外から来た人に冷たいといった問題がある。
- 2. 安全で安心して暮らせるまち**
消防団等の活動は活発で災害も少ないが、防災に対する意識の低さや犯罪への不安といった問題がある。
- 3. 子どもがのびのびと育つまち**
学校教育や子ども会等の活動は良好だが、行事が多いため子どもにゆとりがない、子どもの遊び場の確保といった問題がある。
- 4. いきいきと暮らせる笑顔のまち**
芦屋中央病院があり、また、お弁当配達などの取り組みが評価されているが、さらなる医療・福祉の充実や高齢者が高齢者を支えている状態が問題とされている。
- 5. 活力ある産業を育むまち**
観光や農業祭などの資源はあるが、商店街の衰退や不漁といったまちの活力の低下、担い手の不足が問題となっており、全項目でも最も評価が低い。
- 6. 環境にやさしく、快適なまち**
町営住宅や公園、道路等の整備は進んでおり、また、クリーンキャンペーン等の活動も評価されている。公共交通や道路網といった交通面の問題が各班から共通で出されている。
- 7. 心豊かな人が育つまち**
文化・スポーツは活動も盛んで施設も整備されているが、利用者が少ない。伝統文化の継承が問題となっている。

【第1回住民ワークショップ 全体のまとめ】
 全体を通してみると、住民の活動は活発であるが、参加者の拡大や意識の向上が求められている。人口減少、高齢化に伴う、住民活動や産業の担い手の確保が求められている。芦屋町の魅力資源の継承と活用による観光振興が求められている。特に、産業振興と交通利便性の向上が共通した課題となっている。

芦屋町のキャッチフレーズとして、「人」「自然(海)」「文化」「つながり」が共通している。今ある芦屋町の魅力を最大限活用し、魅力的なまちをみんなで作るという考え方であることが分かる。

第2回(芦屋町のキャッチフレーズ)

温もりでつながる芦屋町
ぬくもりで繋がる芦屋町

人・自然・文化
魅力あふれる芦屋町

あしたもあしや
～人、海、文化で『魅せる』まち～

歴史と文化を彩るまち あしや

あしや町 WO 世界へ
～one team を目指して～